

**教員免許状の授与資格を得るために履修すべき授業科目及び単位数
(2022・2023年度入学者)**

【履修上の注意】

1. **教育の基礎的理解に関する科目等及び文部科学省令で定める科目**: 全て履修して下さい。
2. **教科及び教科の指導法に関する科目**: 免許教科ごとの表に従い所要の単位数を修得して下さい。
3. 教育の基礎的理解に関する科目等は卒業要件の単位には算入されないので留意して下さい。(商船教員養成コースを除く。) また、教科及び教科の指導法に関する科目のうち、「商船科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「工業科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「職業指導(商業または工業)」は卒業要件単位数に含まれません。
4. 教育実習は、4年次の5月から6月頃の2週間の期間で実施しますが、3年次までに履修すべき「教職に関する科目」の単位すべてを修得している学生だけが履修できます。
なお、教育実習を履修する学生は、教育実習実施中の事故への対応として「学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険(A: 学生教育研究賠償責任保険)」に加入することが必要となります。
保険に加入していない場合は、教育実習を履修できません。保険加入については、学生支援係に問い合わせして下さい。
5. 教育実習参加に際しては、実習校より、麻疹等に感染していないことを証明する書類の提出を求められる場合があります。

1 教育の基礎的理解に関する科目等

【2022, 2023年度】

【2022・2023年度】												
免許 教科	授業科目	単位数	毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		I
共	現代教師論	2		2.3								
	教育原理	2			2.3							
	教育心理学	2			2.3							
	特別支援教育概論	1				集						
	教育行政学	2				集						
	比較教育制度論	2				集						教職選択必修注1
	教育方法・情報通信技術活用論	2				2.3						
	教育相談	2						集				
	教育課程論	1						集				
通	生徒・進路指導	2						2.3				
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2							集			
	教職実践演習（高等学校）	2								集		
	教育実習事前事後指導	1								集		
	教育実習	2								集		

注1 「教育行政学」「比較教育制度論」から1科目選択必修

2 文部科学省令で定める科目

免許 教科	授業科目	単位数	毎週授業時間数
共 通	情報リテラシー		単位数及び毎週授業時間数は、授業科目及び単位数の表の1総合科目のとおり
	日本国憲法		
	スポーツⅠ		
	スポーツⅡ		
	Basic EnglishⅠ		
	Basic EnglishⅡ		
	Practical EnglishⅠ		
	Practical EnglishⅡ		

注2 外国人留学生等が、「Basic EnglishⅠ・Ⅱ」「Practical EnglishⅠ・Ⅱ」のいずれかの単位修得に代えて、「総合日本語Ⅰ」、「総合日本語Ⅱ」の単位を修得した場合には、教員の免許状授与の所要資格を取得することはできません。

(1) 商船

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 機関システム工学コース (商船教員養成コースも含む)	備 考
商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学概論 ※1 職業指導(商船) ※1	商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学入門 ※1 職業指導(商船) ※1	※1のついた4科目(8単位)は 全て修得する必要がある。
大気環境学 抵抗推進論 航海システムⅠ 運航管理 保険契約法 海上危機管理論 海洋環境学 国際法 船舶運航論 組織管理論 計測工学Ⅱ 船体構造論 航海システムⅡ 航海システムⅢ マリナーズファクターと安全運航 航海システム概論 船舶実験Ⅰ(汐路丸) 船舶実験Ⅱ(汐路丸) 海洋実習※2 短艇実習 航海英語Ⅰ 航海英語Ⅱ 海事法規 船舶医学 国際海事訓練セミナー	ターボ動力工学Ⅰ ターボ動力工学Ⅱ ガスタービン工学 内燃機関工学Ⅰ 内燃機関工学Ⅱ エネルギー工学 原子力機関工学 補助機械工学 冷凍空調工学 流体機械工学 電気工学 電気機器学 電気推進基礎論 機関システム管理工学 船舶工学Ⅰ 船舶工学Ⅱ 船舶医学 機関英語Ⅰ 機関英語Ⅱ 海事法概論 国際法 海運経営論 材料・機械力学演習 熱流体工学演習 船舶実験(汐路丸) 電子機械工学ゼミナール 海洋実習※2 短艇実習 機関実務実習	単位数及び毎週授業時間数は、 授業科目及び単位数の表の3専 門科目のとおり。 ※2 2023年度入学者は「水泳実 習」を修得すること

(2) 工業

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 制御システム工学コース	流通情報工学科	備 考
工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	※のついた4科目（8単位）は 全て修得する必要がある。
海事システム工学概論 電気工学 船舶基礎力学 電子通信工学 信号情報処理 安全工学 信頼性工学 海事情報処理 浮体運動論 制御工学 海事システム工学実験演習Ⅰ 海事システム工学実験演習Ⅱ 海事システム工学実験演習Ⅲ 海事システム工学実験演習Ⅳ Topics in Maritime Linguistics 海事システム工学実験演習Ⅴ アルゴリズム 計測工学Ⅰ 通信ネットワーク ラプラス・フーリエ解析 最適化数学 確率論 振動と波動 複素解析 数値解析	海洋流体工学 材料力学 機械力学 トライボロジー 金属材料学 環境材料学 工業熱力学 伝熱工学 流体工学 機械設計製図 機械加工学 材料物理学 計算物理学 ロボット工学Ⅰ ロボット工学Ⅱ 水中機器学 ソフトウェア工学 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 応用制御工学 基礎電子工学 制御システム工学演習 半導体工学 電子回路論 振動と波動 計測工学 化学エネルギー変換工学 信号情報処理 信頼性工学 データ構造とアルゴリズム 機械学習 電子機械工学実習 電子機械工学実験 ラプラス・フーリエ解析 確率論 最適化数学 複素解析 数値解析	物流施設計画学 コンテナ輸送工学 物流管理工学 物流リスク工学 流通最適化学 流通基盤計画学 港湾環境工学 データベース工学 流通オペレーションズ・リサーチ 作業管理工学 交通計画学 流通データ分析 データサイエンス 基礎プログラミング演習 データサイエンス演習 応用プログラミング 流通情報システム 機械学習 データ構造とアルゴリズム 流通情報工学ゼミナールⅠ 流通情報工学ゼミナールⅡ 流通情報工学実験 流通情報工学演習 通信ネットワーク 衛星測位工学 安全工学 最適化数学 確率論 数値解析 ラプラス・フーリエ解析 複素解析	

単位数及び毎週授業時間数は、
授業科目及び単位数の表の3専
門科目のとおり。
ただし、「計算機科学」は表
2のとおり。

教員免許状の授与資格を得るために履修すべき授業科目及び単位数
(2024・2025年度入学者)

【履修上の注意】

- 1. 教育の基礎的理解に関する科目等及び文部科学省令で定める科目: 全て履修して下さい。
- 2. 教科及び教科の指導法に関する科目: 免許教科ごとの表に従い所要の単位数を修得して下さい。
- 3. 教育の基礎的理解に関する科目等は卒業要件の単位には算入されないので留意して下さい。(商船教員養成コースを除く。) また、教科及び教科の指導法に関する科目のうち、「商船科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「工業科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「職業指導(商業または工業)」は卒業要件単位数に含みません。
- 4. 教育実習は、4年次の5月から6月頃の2週間の期間で実施しますが、3年次までに履修すべき「教職に関する科目」の単位すべてを修得している学生だけが履修できます。
なお、教育実習を履修する学生は、教育実習実施中の事故への対応として「学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険(A: 学生教育研究賠償責任保険)」に加入することが必要となります。
保険に加入していない場合は、教育実習を履修できません。保険加入については、学生支援係に問い合わせして下さい。
- 5. 教育実習参加に際しては、実習校より、麻疹等に感染していないことを証明する書類の提出を求められる場合があります。

1 教育の基礎的理解に関する科目等											【2024・2025年度】	
免許 教科	授業科目	単位数	毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
										I	II	
共	現代教師論	2		2. 3								
	教育原理	2			2. 3							
	教育心理学	2			2. 3							
	特別支援教育概論	1				集						
	教育行政学	2				集						教職選択必修 注1
	比較教育制度論	2				集						
	教育方法・情報通信技術活用論	2				2. 3						
	教育相談	2					集					
	教育課程論	1					集					
通	生徒・進路指導	2					2. 3					
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2						集				
	教職実践演習（高等学校）	2								集		
	教育実習事前事後指導	1								集		
	教育実習	2								集		

注1 「教育行政学」「比較教育制度論」から1科目選択必修

2 文部科学省令で定める科目											
免許 教科	授業科目	単位数	毎週授業時間数								
共 通	データサイエンス入門A	単位 数	単位数及び毎週授業時間数は、授業科目及び単位数の表の1総合科目のとおり								
	データサイエンス入門B										
	日本国憲法										
	スポーツⅠ										
	スポーツⅡ										
	Basic EnglishⅠ										
	Basic EnglishⅡ										
	Practical EnglishⅠ										
	Practical EnglishⅡ										

注2 外国人留学生等が、「Basic EnglishⅠ・Ⅱ」「Practical EnglishⅠ・Ⅱ」のいずれかの単位修得に代えて、「総合日本語Ⅰ」、「総合日本語Ⅱ」の単位を修得した場合には、教員の免許状授与の所要資格を取得することはできません。

(1) 商船

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 機関システム工学コース (商船教員養成コースも含む)	備 考
商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学概論 ※1 職業指導(商船) ※1	商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学入門 ※1 職業指導(商船) ※1	※1のついた4科目(8単位)は 全て修得する必要がある。 単位数及び毎週授業時間数は、 授業科目及び単位数の表の3専 門科目のとおり。
大気環境学 抵抗推進論 航海システムⅠ 運航管理 保険法 海上危機管理論A 海上危機管理論B 海洋環境学 海法Ⅱ 船舶運航論 組織管理論 計測工学Ⅱ 船体構造論A 船体構造論B 航海システムⅡ 航海システムⅢ マリナーズファクターと安全運航A マリナーズファクターと安全運航B 航海システム概論 船舶実験Ⅰ(汐路丸) 船舶実験Ⅱ(汐路丸) 船舶実験Ⅲ(汐路丸) 水泳実習 短艇実習 航海英語Ⅰ 航海英語Ⅱ 海事法規A 海事法規B 船舶医学A 船舶医学B	ターボ動力工学Ⅰ ターボ動力工学Ⅱ 内燃機関工学Ⅰ 内燃機関工学Ⅱ エネルギー工学 原子力機関工学 補助機械工学 冷凍空調工学 電気工学 電気機器学 機関システム管理工学 船舶工学A 船舶工学B 船舶工学C 船舶医学A 船舶医学B 機関英語Ⅰ 機関英語Ⅱ 機関英語Ⅲ 海事法概論 海法Ⅱ 海運経営論A 海運経営論B 材料・機械力学演習 熱流体工学演習 船舶実験(汐路丸) 電子機械工学ゼミナール 水泳実習 短艇実習 機関実務実習	

(2) 工業

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 制御システム工学コース	流通情報工学科	備 考
工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	※のついた4科目（8単位）は 全て修得する必要がある。
電気工学 船舶基礎力学A 船舶基礎力学B 電子通信工学A 電子通信工学B 信号情報処理A 信号情報処理B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B 海洋IoT 浮体運動論 制御工学 認知モデリング工学 海事システム工学実験演習Ⅰ 海事システム工学実験演習Ⅱ 海事システム工学実験演習Ⅲ 海事システム工学実験演習Ⅳ 海事システム工学実験演習Ⅴ アルゴリズム 計測工学Ⅰ 通信ネットワーク ラプラス・フーリエ解析 最適化数学 確率論 振動と波動 複素解析 数値解析	材料力学 機械力学 トライボロジー 金属材料学 環境材料学 工業熱力学A 工業熱力学B 伝熱工学 流体工学 機械設計製図Ⅰ 機械設計製図Ⅱ 機械加工学 材料物理学 計算物理学 ロボット工学Ⅰ ロボット工学Ⅱ ソフトウェア工学 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 制御工学Ⅲ 基礎電子工学 制御システム工学演習Ⅰ 制御システム工学演習Ⅱ 半導体工学 電子回路論 振動と波動 計測工学 化学エネルギー変換工学 信号情報処理A 信号情報処理B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B データ構造とアルゴリズム 機械学習 電子機械工学実験・実習Ⅰ 電子機械工学実験・実習Ⅱ ラプラス・フーリエ解析 確率論 最適化数学 複素解析 数値解析	物流施設計画学A 物流施設計画学B 国際輸送工学A 国際輸送工学B ロジスティクス実務論 物流リスク工学 流通最適化工学A 流通最適化工学B 流通基盤計画学 港湾環境工学A 港湾環境工学B データベース工学 流通オペレーションズ・リサーチA 流通オペレーションズ・リサーチB 作業管理工学 交通計画学A 交通計画学B 流通データ分析 データサイエンス 基礎プログラミング演習 データサイエンスAⅠ実践 応用プログラミングA 応用プログラミングB 流通情報システムA 流通情報システムB 機械学習 データ構造とアルゴリズム 流通情報工学ゼミナールⅠ 流通情報工学ゼミナールⅡ 流通情報工学実験 流通情報工学演習 通信ネットワーク 衛星測位工学A 衛星測位工学B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B 最適化数学 確率論 数値解析 ラプラス・フーリエ解析 複素解析	

単位数及び毎週授業時間数は、
授業科目及び単位数の表の3専
門科目のとおり。
ただし、「計算機科学」は表
2のとおり。

教員免許状の授与資格を得るために履修すべき授業科目及び単位数
(2026年度以降入学者)

【履修上の注意】

- 1. 教育の基礎的理解に関する科目等及び文部科学省令で定める科目: 全て履修して下さい。
- 2. 教科及び教科の指導法に関する科目: 免許教科ごとの表に従い所要の単位数を修得して下さい。
- 3. 教育の基礎的理解に関する科目等は卒業要件の単位には算入されないもので留意して下さい。(商船教員養成コースを除く。) また、教科及び教科の指導法に関する科目のうち、「商船科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「工業科指導法Ⅰ・Ⅱ」、「職業指導(商業または工業)」は卒業要件単位数に含みません。
- 4. 教育実習は、4年次の5月から6月頃の2週間の期間で実施しますが、3年次までに履修すべき「教職に関する科目」の単位すべてを修得している学生だけが履修できます。
なお、教育実習を履修する学生は、教育実習実施中の事故への対応として「学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険(A: 学生教育研究賠償責任保険)」に加入することが必要となります。
保険に加入していない場合は、教育実習を履修できません。保険加入については、学生支援係に問い合わせして下さい。
- 5. 教育実習参加に際しては、実習校より、麻疹等に感染していないことを証明する書類の提出を求められる場合があります。

1 教育の基礎的理解に関する科目等											【2026年度以降】	
免許 教科	授業科目	単位数	毎 週 授 業 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
										I	II	
共	現代教師論	2		2. 3								
	教育原理	2			2. 3							
	教育心理学	2			2. 3							
	特別支援教育概論	1				集						
	教育行政学	2				集						教職選択必修 注1
	比較教育制度論	2				集						
	教育方法・情報通信技術活用論	2				2. 3						
	教育相談	2					集					
通	教育課程論	1					集					
	生徒・進路指導	2					2. 3					
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2						集				
	教職実践演習（高等学校）	2								集		
	教育実習事前事後指導	1								集		
	教育実習	2								集		

注1 「教育行政学」「比較教育制度論」から1科目選択必修

2 文部科学省令で定める科目											
免許 教科	授業科目	単位数	毎週授業時間数								
共 通	データサイエンス入門A	単位 数	単位数及び毎週授業時間数は、授業科目及び単位数の表の1総合科目のとおり								
	データサイエンス入門B										
	日本国憲法										
	スポーツⅠ										
	スポーツⅡ										
	Basic EnglishⅠ										
	Basic EnglishⅡ										
	Practical EnglishⅠ										
	Practical EnglishⅡ										

注2 外国人留学生等が、「Basic EnglishⅠ・Ⅱ」「Practical EnglishⅠ・Ⅱ」のいずれかの単位修得に代えて、「総合日本語Ⅰ」、「総合日本語Ⅱ」の単位を修得した場合には、教員の免許状授与の所要資格を取得することはできません。

3 教科及び教科の指導法に関する科目

【2026年度以降】

(1) 商船

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 機関システム工学コース (商船教員養成コースも含む)	備 考
商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学概論 ※1 職業指導(商船) ※1	商船科指導法Ⅰ※1 商船科指導法Ⅱ※1 機関システム工学入門 ※1 職業指導(商船) ※1	※1のついた4科目(8単位)は 全て修得する必要がある。 単位数及び毎週授業時間数は、 授業科目及び単位数の表の3専 門科目のとおり。
大気環境学 抵抗推進論 航海システムⅠ 運航管理 保険法 海上危機管理論A 海上危機管理論B 海洋環境学A 海洋環境学B 海法Ⅱ 船舶運航論A 船舶運航論B 組織管理論 計測工学Ⅱ 船体構造論A 船体構造論B 航海システムⅡ 航海システムⅢ マリナーズファクターと安全運航A マリナーズファクターと安全運航B 航海システム概論 船舶実験Ⅰ(汐路丸) 船舶実験Ⅱ(汐路丸) 船舶実験Ⅲ(汐路丸) 水泳実習 短艇実習 航海英語Ⅰ 航海英語Ⅱ 海事法規A 海事法規B 船舶医学A 船舶医学B	ターボ動力工学Ⅰ ターボ動力工学Ⅱ 内燃機関工学Ⅰ 内燃機関工学Ⅱ エネルギー工学 原子力機関工学 補助機械工学 冷凍空調工学 電気工学 電気機器学 機関システム管理工学 船舶工学A 船舶工学B 船舶工学C 船舶医学A 船舶医学B 機関英語Ⅰ 機関英語Ⅱ 機関英語Ⅲ 海事法概論 海法Ⅱ 海運経営論A 海運経営論B 材料・機械力学演習 熱流体工学演習 船舶実験(汐路丸) 電子機械工学ゼミナール 水泳実習 短艇実習 機関実務実習	

(2) 工業

以下の表の中から36単位以上修得すること。

海事システム工学科	海洋電子機械工学科 制御システム工学コース	流通情報工学科	備 考
工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	工業科指導法Ⅰ※ 工業科指導法Ⅱ※ 計算機科学 ※ 職業指導（工業） ※	※のついた4科目（8単位）は 全て修得する必要がある。
電気工学 船舶基礎力学Ⅰ 船舶基礎力学Ⅱ 電子通信工学Ⅰ 電子通信工学Ⅱ 信号情報処理A 信号情報処理B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B 海洋Ⅰ o T 浮体運動論 制御工学 認知モデリング工学 海事システム工学実験演習Ⅰ 海事システム工学実験演習Ⅱ 海事システム工学実験演習Ⅲ 海事システム工学実験演習Ⅳ 海事システム工学実験演習Ⅴ アルゴリズムⅠ アルゴリズムⅡ 計測工学Ⅰ 通信ネットワーク ラプラス・フーリエ解析 最適化数学 確率論 振動と波動 複素解析 数値解析	材料力学 機械力学 トライボロジー 金属材料学 環境材料学 工業熱力学A 工業熱力学B 伝熱工学 流体工学 機械設計製図Ⅰ 機械設計製図Ⅱ 機械加工学 材料物理学 計算物理学 ロボット工学Ⅰ ロボット工学Ⅱ ソフトウェア工学 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ 制御工学Ⅲ 基礎電子工学 制御システム工学演習Ⅰ 制御システム工学演習Ⅱ 半導体工学 電子回路論 振動と波動 計測工学 化学エネルギー変換工学 信号情報処理A 信号情報処理B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B データ構造とアルゴリズム 機械学習 電子機械工学実験・実習Ⅰ 電子機械工学実験・実習Ⅱ ラプラス・フーリエ解析 確率論 最適化数学 複素解析 数値解析	物流施設計画学 国際物流論A 国際物流論B ロジスティクス実務論 流通最適化工学 流通基盤計画学 データベース工学 流通オペレーションズ・リサーチ 作業管理工学 交通計画学 データサイエンス プログラミング演習 データサイエンスAⅠ実践 流通情報システム 機械学習 データ構造とアルゴリズム 流通情報工学ゼミナールⅠ 流通情報工学ゼミナールⅡ 流通情報工学実験 流通情報工学演習 通信ネットワーク 衛星測位工学A 衛星測位工学B 安全性と信頼性A 安全性と信頼性B 最適化数学 確率論 数値解析 ラプラス・フーリエ解析 複素解析	

単位数及び毎週授業時間数は、
授業科目及び単位数の表の3専
門科目のとおり。
ただし、「計算機科学」は表
2のとおり。